2-4 文学

近江は古来、多くの文学で語れられてきました。王朝文学、戦記物、現代文学、あるいは和歌や短歌、俳句、現代詩。その多くで作品の性格づくりに琵琶湖が関わっています。県土の真ん中に琵琶湖のある滋賀県では地域(湖北、湖東、湖南、甲賀、湖西)性もいくらか異なるのですが、文学にも地域性が感じられます。

1. 地域性の特徴

(1) 湖 北：気候等々が北陸に似ている琵琶湖北部地方は、冬の厳しい自然と向き合う中で自然を受け入れ、共生する暮らしの文化を生んできました。その心が偲ばれる地です。

(2) 湖 東：古来から現在に至るまでいくつもの主要街道が通るこの地方は早くから文化の交流が見られ、また江戸時代以降、農工商も繁栄し成熟した文化を伝えています。

(3) 湖 南：かつては田園地帯だったのですが、交通至便のため人口が増え、都市化が著しいところです。しかし新旧の風俗習慣はうまく融合し新しい魅力を作っています。

(4) 甲 賀：奈良に接しているところから、古代には奈良の都の貴族の荘園があり、奈良仏教の修行僧たちも出入りし、近江の精神文化構築の土壌を育んだところです。

(5) 大津市：京の都に近かったため、平安時代以降、琵琶湖に憧れる貴族の保養地になったり、石山詣での流行があったりして、暮らしも文化も京の影響を強く受けています。

(6) 湖 西：比叡、比良の山塊と琵琶湖との距離が短く、都市化が遅れ、その分、自然がよく残ったところです。古代の北陸道が通っていたので古典によく登場します。

2. 近江が関わる文学作品(主に関わっている地。一部)

(1) 滋賀県全域にわたる作品

井上靖	『星と祭』 『額田女王』	水上勉	『湖笛』 『流れ公方記』
司馬遼太郎	『街道をゆく』	白洲正子	『近江山河抄』 『かくれ里』 『西国巡礼』
北方謙三	『道誉なり』	秦恒平	『みごもりの湖』
芝木好子	『群青の湖』	伝信濃前司行長	『平家物語』
阿仏尼	『十六夜日記』	梨木香歩	『家守綺譚』
泉鏡花	『瓔珞品』		

(2) 湖北(長浜市・米原市)

大佛次郎	『宗方姉妹』	小西健之助	『海峡の虹』
永井路子	『一豊の妻』	深田久弥	『日本百名山』
谷崎潤一郎	『盲目物語』	岩井三四二	『月の浦惣庄公事置書』
山本周五郎	『あらくれ武道』	森敦	『浄土』
宮尾登美子	『序の舞』	山本兼一	『夢をまことに』

(3) 湖東(彦根市・東近江市・近江八幡市・日野町・竜王町・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町)

辻邦生	『安土往還記』	勝海舟	『氷川清話』
外村繁	『筏』『草筏』	阿井景子	『龍馬の妻』
井伏鱒二	『かるさん屋敷』	太田治子	『心映えの記』
吉屋信子	『安宅家の人々』	海音寺潮五郎	『蒲生氏郷』
平岩弓枝	『日野富子』	南條範夫	『古城物語』
井原西鶴	『西鶴織留』	澤田ふじ子	『惜別の海』『有明の月』
舟橋聖一	『花の生涯』	辻原登	『花はさくらぎ』

(4) 湖南・甲賀(草津市・守山市・野洲市・栗東市・甲賀市・湖南市)

徳永真一郎	『燃ゆる甲賀』	水上勉	『信楽物語』
平岩弓枝	『やきもの師』	森鴎外	『小倉日記』
岡本かの子	『東海道五十三次』	坂口安吾	『桜の森の満開の下』

(5) 大津市(南部)

横光利一	『琵琶湖』	島崎藤村	『春』『眼鏡』
松尾芭蕉	『幻住庵記』	杉本苑子	『埋み火』
永井路子	『雲と風と』	小泉八雲	『興義和尚のはなし』
三浦綾子	『細川ガラシャ夫人』	山本周五郎	『尾花川』
岡本かの子	『金魚繚乱』	吉村昭	『ニコライ遭難』

(6) 湖西(大津市北部・高島市)

井上靖	『比良のしゃくなげ』『夜の声』『詩集 北国』	五木寛之	『蓮如』
谷崎潤一郎	『乳野物語』	城山三郎	『一歩の距離』
水上勉	『桜守』『一休』	川口松太郎	『一休さんの門』
澤田ふじ子	『比良の水底』	山本周五郎	『鉢の木』
秦恒平	『秘色』	黒岩重吾	『北風に起つ』
童門冬二	『小説 中江藤樹』	宮本輝	『にぎやかな天地』
瀬戸内晴美	『比叡』		

西本 梛枝